

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス ステラ				公表日	年	月	日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点					
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・十分なスペースの確保を行っている					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		・基準、加配人員を適切に配置。加えて専門職における人員も配置している					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・バリアフリーではないが、目の行き届きやすい環境となっている	・建物の都合上、仕方ないが階段に手摺りがあると良い ・トイレのドアの剥がれた部分を補修したいが、管理会社から保留のまま返事が無い。子ども達が怪我をしない為にも早急に対応を進めていきたい				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・利用児が帰宅後、毎日の掃除、消毒を徹底して行っている					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・死角となる為、利用児のみの使用はできないが、ご本人の様子や体調等を考慮しスタッフを配置する事で必要に応じた使用ができています					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		・毎朝の朝礼、定期的なスタッフミーティングで全員で共有を行っている					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・評価表は年1回となるが、改善が必要な内容については日次単位で話し合いを行っている。 毎朝の朝礼、定期的なスタッフミーティングで全員で共有を行っている					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・毎朝の朝礼、定期的なスタッフミーティングでスタッフが発言、意見交換し、利用児の対応方法等について話し合う機会を設けている ・改善点に関しても全体で共有し早急な改善に繋げている					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2		・第三者による外部評価の導入は初年度に行っていたが、現在は滞ってしまっている。日々の業務の多忙さはある中、そこに対しても改善、効率化を図る為、第三者による外部評価の導入・継続を検討していく ・第三者による外部評価について、スタッフ間への周知を行う				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・月1回、専門性を高めていけるような社内研修を実施している ・個々の経験年数に応じて、キャリアアップを図った児発管基礎研修等も積極的に受講できる機会を設けている	・今後は県士会等の研修への参加を積極的に送り出していく				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			・今年度末より自社ホームページにて公表していく				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		・モニタリング会議を活用し、個別支援計画立案に向けた話し合いを実施している。保護者、関係者の意見を交えて包括的な視点で作成を行っている					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・個別支援計画の作成時点でスタッフ間で共有している。事業所で取り組む内容は常にスタッフと共有を図っている					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・スタッフミーティング内で、児発管が立案した個別支援計画書を共有している					

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		・フォーマルだと知能検査、発達検査、インフォーマルだとフェイスシート、アセスメントシート、日々の支援記録、モニタリング会議議事録、保護者面談議事録、事業所内モニタリングシート等を活用し確認・共有を行っている	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		・本人支援では5領域への着目、家族支援では保護者・ご家族との関わり、移行支援では、就学に向けた取り組みや子ども園・保育園との情報共有を意識して日々関わらせてもらっています。いただいたご意見から逃れることのないよう、今後も具体的な支援の展開を行っています	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・月2回、スタッフミーティングにおいて、スタッフ全員で活動プログラム案を出し合っている。利用する子ども達がマンネリしないよう、楽しみながら参加できる内容を作成している	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・苦手な事でも「楽しい」を動機付けできるように工夫している。「できた」を大切に、成功体験の積み重ねができるような内容を模索している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		・個々の特性に配慮した活動参加への促しを行っている。それぞれの時々の状態によって個別、集団を使い分ける工夫をしている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・毎朝、当日の支援内容についての共有を徹底して行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		・業務上、その日には難しいことも翌朝の朝礼では必ず共有している。緊急性の高い内容については、管理者を元にすぐに共有や報告、相談を行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・日々の記録として、業務日誌、個別支援記録、保護者へのLINEを徹底して取り組んでいる。記録の内容を元に支援方法の改善が必要な場合は全体で模索している	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・個々の状態に応じて3～6か月程度で個別支援計画の見直しを行っている。また、定期的に事業所内でもモニタリングを行い、その時点での評価をだしている	
関係機関や保護者との	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		・現場スタッフの意見を集約し、児発管を中心とした参画を行っている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		・小学校区レベルでは近隣の自治体、学童、小学校と細かな連携を取っている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		地域の子ども園と連携を行い、事業所の支援内容や子ども園での取り組み等を相互に共有している	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		・就学に向けて学童、小学校との情報交換を行っている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					

の 連 携	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3	・児童発達支援センター、基幹相談、自立支援協議会が主催する研修会に参加している。 児童発達支援センターのサポートの元、同市の障害児通所支援事業所との連携、ネットワーク構築を行っている	・途中入職のスタッフに対しても、児童発達支援センター所在、役割、機能の説明を行っていく。必要に応じた社会資源の選択肢を増やしていく
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5		・地域の子ども園と連携し、子ども園に在籍していない利用児への給食体験や園庭遊び等に参加させてもらっている ・地域の児童センターを活用し、施設利用を通して遊ぶ機会を設け、障害の有無に関わらず地域生活が営めるようインクルージョンの視点を持って活動を行っている	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・当日の利用の様子等を送迎時やLINE等を活用して伝えている。利用児一人一人の保護者との関わりを大切にしている	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	・地域で実施されている専門性の高い研修等を保護者に向けて発信している	・自事業所において、ペアレントトレーニングの実施はまだ行われていないが、今年度は定期的に保護者を対象とした研修会等の実施について会議の中で検討されている
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		・契約時、わかりやすく丁寧な説明を心がけています	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・個別支援計画作成では、保護者の要望や課題ばかりに着目するのではなく、本人の希望や強み等も加味した内容で作成している	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		・児発管から保護者へ説明し、しっかりと同意を得ている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・家族、保護者からの悩み、相談事はその都度適切に対応できている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		・今年度は年1回、保護者、きょうだいも参加できる親子バーベキュー会を実施。保護者、利用児、きょうだい児、スタッフが交流できる良い機会となれている	・今後も取り組みは継続しつつ、次年度以降は、更なる交流の機会が持てるよう「作品展」「活動報告会」等の開催も会議で議題として挙がっています。決定次第、皆様へご案内致します
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談体制の拡充の為、今年度より法人内に相談支援事業所も設置しています。また、精神保健福祉士や言語聴覚士等の専門性に長けた職員も常駐しています	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・Instagramを活用し、活動の様子等を定期的に発信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・個人情報の取り扱いについては、最善の対策・保護を施しています	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・個々の適した配慮が必要な内容については、スタッフで共有し、共通認識の中で対応するようにしている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	・姉妹事業所(ステラNEXT)との合同イベントでは地域交流は行えている ・関係機関を招待してハロウィンでのお菓子交換を行っていたが、今年度は滞ってしまった為、次年度は積極的な関わりを再開していく	・今年度は地域住民、関係機関等を招待するイベントに取り組みしていない。今後は地域の一人として、児童センターの児童達を招待しての餅つき会等が開催できれば、地域との交流ができるかと模索中
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	・契約時、保護者配布用のマニュアルを一式用意して重要書類として配布している	・緊急時対応マニュアルにおける有事の際の避難訓練は実施しているが一部の内容に留まっている。今後は更なる有事を想定した訓練の実施も行っていきたい	
46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・今年度BCPの策定と共に自治会を中心とした地域の防災委員会へ加盟。今後は大規模避難を想定し小学校、近隣学童、自治体との連携強化を予定している	・今年度BCPを策定。今後は見直しと共に机上訓練を実施していく。BCPの内容に含まれている自然災害時における自事業所の避難訓練は既に実施しているが、今後は地域と連携した取り組みも行っていく	

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		・事前、直前共に服薬状況や利用時の必要性について共有している	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		・事前のインテークや契約締結時の段階で確認し、対応方法を聞いて適切に実施している ・保護者からの報告を元にスタッフで共有している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			・定期的な訓練実施を行っているが、様々な状況を想定した取り組みも検討していきたい
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		・有事の際の連絡体制については、保護者と共有を行っている。また、定期的に連絡網の見直しも行っている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・ヒヤリハットが発生した場合は、報告書を作成しスタッフ全体で共有している。事故への発展、再発防止にむけた取り組みを全体で取り組んでいる	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・定期的に社内で様々なテーマで虐待防止研修を実施している	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		・身体拘束を必要とする強度行動障害を有している利用児がいない為、発生の事案は現状なし	・身体拘束適正化委員会を元に研修を実施し、身体拘束の必要性が出てきた場合は適切な方法で十分な説明、了承を得た上で内容を検討していく